第３学年　国語学習指導案

日時　令和７年１２月１９日
指導者　教諭　石山　生
指導学級　３年２組
場所　３年２組　教室

１　単元名　「『熊』と向き合ってみませんか」ー複数の意見を読んで、投書を書く（B　書くこと）

２　単元の目標

（１）話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。
［知識及び技能］（１）ウ

（２）目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。
［思考力、判断力、表現力等］B（１）エ

（３）言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力、人間性等」

３　本単元で取り上げる言語活動

生成AIや級友との対話を通して、目的や意図に沿った意見文になるように推敲する。
［思考力、判断力、表現力等］B（２）ア

４　単元の評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。	「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。	学習の見通しをもって自分の考えを広げたり深めたりして、テーマに対する自分の意見を粘り強くまとめようとしている。

５　単元について

（１）　題材観

意見文を書くにあたって「複数の意見を読んで考えようー正解が一つに決まらない課題と向き合う」（国語３　光村図書）を使用する。教科書本文には「環境問題を解決するために、今、何が必要か。」をテーマとした3編の意見文が掲載されている。各文章は異なる立場から論理的に展開されており、冒頭での立場の明示や、対立意見への言及など、説得力を高めるための構成上の工夫が随所に施されている。これらの工夫を読み取らせることは、生徒が自身の意見文を記述する際の参考になると考える。

実践における意見文のテーマとしては、生徒にとってより切実な問題である「熊と人間は今後どう付き合っていくべきか」を設定した。本校学区は森林に隣接しており、昨今の全国的な傾向と同様、学区内への熊の出没が見られるようになってきた。それゆえ、本テーマは生徒が当事者意識を持って思考し、主体的に意見を形成するのに適した題材であると考える。

（２）　生徒観

本生徒たちは、これまで、お礼状の作成の推敲を通して自分の思いを表現するためにどのような言葉が適切か考える学習をしてきた。どの言葉を選択するかによって伝わる内容に差があることを実感する中で、より自分の思いが表現できる言葉を探す姿勢を身に付けることができた。

しかし、「相手に行動を起こしてもらうため」といった目的や意図に着目しながら文章を整える力はまだ身に付けられていない。また、完成した創作物に満足し、さらに納得いくものへ昇華させる意識が低いことも課題である。

（3） 指導観

（1）（2）を踏まえて、「自分の意見をより分かりやすく伝える」ために、新聞の投書の下書きを推敲する学習を取り入れる。「クマの出没問題」に対する自身の主張を、より伝わる表現へと練り上げていく。そのために今回の学習では、推敲のヒントを提示する生成AIの活用や、級友との対話を取り入れる。対話を通して、自分では気が付かなかった独りよがりな表現や論理の飛躍に気付き、説得力を高めるための論理の展開や表現を見付けられると考える。それらを基に推敲することで、読み手を納得させるという目的や意図に沿った文章へと主体的に整えられるようになることを期待したい

なお、推敲にあたっては「文章全体の構成」や「正しい文の構造や文法」、「表現の仕方」などの観点を押さえておくことが必要である。そのため、これまでの学習を振り返り、事前に観点を整理させる時間を設ける。

以上の推敲を重ねた文章を河北新報の投書欄「声の交差点」に投書する。自分の文章を外部の機関に投稿するという目的を作ることで、「自分の言葉が社会に届くかもしれない」という期待感を持たせ、より良い文章に仕上げようとする生徒の主体的な意欲や、粘り強く推敲に取り組む姿勢を期待したい。

（4） 生成AIの使用場面と使用目的

【使用場面】

投書の下書きをGemに入力し、論理構成や表現の適切さ、正しい文の構造や文法についてフィードバックをもらい、目的や意図に沿っている文章になるように推敲する。

【使用目的】

生徒が説得力のある文章を構築するためには、読み手を意識し、自分の主張が目的や意図に応じた表現になっているかを客観的に見る必要がある。しかし、生徒にとって、自身の文章を客観視することは難しい。限られた時間内では、書くことに精一杯になってしまい、表現の適切さや論理の整合性に着目して推敲するまで至らないことが考えられる。友人間での推敲を行っても、表面的な誤字脱字の修正にとどまってしまうという課題がある。

そこで本単元では、教師があらかじめ「推敲のための観点」を学習させたGemを活用する。

このGemを活用することで、生徒が自分では気付きにくい「独りよがりな表現」や「論理の飛躍」を見つけることができる。生徒はこのフィードバックをもとに、「読み手にどのように伝わるか」を意識しながら、より適切な語句に選び直したり、論理の展開を再構築したりすることで目的や意図に沿って文章全体を整えることができる。

つまりGemは、生徒の代わりに文章を書くのではなく、推敲を手助けしてくれる助手として生徒一人ひとりに寄り添ってくれるのである。このように、Gemの活用は、自身の文章を客観的に見ることの手助けとなり、目的や意図に沿った文章に整える力を身に付けることに対して有効な手段である。

6 指導と評価の計画（5時間扱い 本時5/5）

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	①教科書の3つの意見文を読み、要旨を捉える。	・筆者の主張や意見に着目させる。	

2	①観点を決めて、意見文の論理の展開のしかたを捉える。	・各段落の役割に着目させる。	［知識・技能］① ３つの意見文における論理の展開の仕方について説明できているか確認。
3 4	①テーマについての情報を収集する。 ②熊と人間との付き合い方について級友や生成AIとの対話を通して、自分の立場を決める。 ③前時で捉えた「意見文に説得力を持たせる工夫」を確認する。 ④500字程度で投書の下書きを書く。 ⑤お互いの投書を読み合う。	・対話や検索をして情報を収集させる。 ・自分の主張を明確にさせる。 ・自分の主張に納得してもらえるような構成や内容になっているかという観点で文章をまとめさせる。	［主］① 学習の見通しをもって自分の考えを広げたり深めたりして、テーマに対する自分の意見を粘り強くまとめようとしているか確認。
5 本 時	①前時に書いた投書の下書きをGem「クマ問」に入力し、目的や意図に沿っている文章になっているかどうか、フィードバックをもらう。 ②Gem「クマ問」から受けたフィードバックや級友との対話を基に文章を推敲する。 ③国語班になり、お互いの投書を読み、心が動いた部分を伝え合う。 ④本時の振り返りを行う。	・自分の立場や主張を明確にさせ、より説得力が増す文章になるように文章を推敲させる。 ・生成AIが出力した助言を読んで、納得したものを取り入れることを意識させる。 ・お互いの投書を読み合い、心が動いた部分を理由とともに伝え合う。	［思・判・表］① 生成AIや級友からの指摘を参考に、説明不足、不適切な表現などを修正し、説得力のある文章になるように整えているか確認。

7　本時の指導

（1）　ねらい

・対話からヒントを得て、読み手を納得させられるような投書に推敲する。

段階	主な学習活動	主な発問と指示 予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価規準（評価方法）
導入	1　本時の学習のねらいと見通しを確認する。	1　前時の内容を想起させ、本時の見通しをもたせる。 読み手の心を動かす投書を完成させよう。	
展開	2　推敲のポイントを挙げる	2　推敲のポイントを思い出させる。 ・文法的な間違いはないか。 ・表現の仕方は適切か。 ・文章の繋がりに不自然な部分はないか。	

		・書き手の意図が読み手に正しく伝わるか。	
	3　生成AIを活用する際の注意点を確認する。	3　生成AIとの対話で注意することを確認する。 ・指摘されたことの中で、納得したものを使うこと。 ・自分の主張を明確にした上で対話すること。 ・生成AIに問い返したり、級友に聞いたりして理解に努めること。	・あくまでも対話することを確認させる。 ・ロイロノートにGemとの上手な付き合い方のページを作り、提示する。
	4　生成AIや級友との対話を通して推敲する。	4　下書きを生成AIや級友との対話を通して推敲しましょう。 （予想される生徒の反応） ・文章全体がスムーズに流れるように「しかし」という接続詞を入れよう。 ・「活動を制限された」という部分をもう少し具体的に書こう。 ・人間の行動を見直してもらうために、未来の話も入れよう。 ・反対意見も取り上げてそれに反論したほうが、説得力が増すから反対意見も取り上げよう。 ・この指摘は主張と関係がないから使わない。	・教室内であれば、どこで、誰と一緒に学習しても良いこととする。 ・推敲した部分は変わっても変わっていなくても文字の色を変えて目に見える形で提出させる。 ［思・判・表］① 生成AIや級友からの指摘を参考に、説明不足、不適切な表現などを修正し、説得力のある文章になるように整えられている。 （ロイロノート）
	5　国語班になってお互いの投書を読み合って意見交換を行う。	5　心が動いた部分を伝え合いましょう。	今回の投書の目的は「読んだ人を納得させること」なので、「なるほど」と思った部分を伝えさせる。
終末	6　振り返りを行う。	6　「生成AIや級友とのやり取りをして、文章を直していく中で見つけた読み手に伝わる文章にするための極意をまとめましょう。」	ロイロノートの振り返り機能を使って振り返りをさせる。

（３）評価

本時の評価規準	生成AIや級友からの指摘を参考に、説明不足、不適切な表現などを修正し、説得力のある文章になるように整えられている。
「十分満足できる」と判断できる生徒の状況	生成AIや級友からの指摘を、自分の投書の目的や意図に照らし合わせて吟味し、読み手に意図や主張が分かりやすい文章になるように整えている。
「努力を要する」状況と判断される生徒への手立て	生成AIや級友から指摘された箇所を具体的に確認し、別の表現はないか考えさせる。

（４）板書計画

「熊」と向き合ってみませんか

目標　読み手の心を動かす投書を完成させよう。

意見文のテーマ
「熊と人間は今後、どう向き合っていくべきか」

推敲のポイント

・主張にブレはないか
・文法的な間違いはないか
・表現の仕方は適切か
・文章の流れはスムーズか
・根拠や理由は適切か

（５）その他

熊問題と向き合う文章の推敲の手助けをしてくれるGem、通称「クマ問（もん）」に投書の下書きを入力し、推敲のヒントを求めたときに出力されるもの。

投書の下書きの例

最近、熊の出没のニュースが増え、私たちの生活に不安が広がっています。でも、私は本当にこのまま殺処分という道を選んでいいのか、疑問に感じています。

私たち人間が、熊の住む山を開発し、彼らの住む場所を奪ってきたことが、熊が人里に出てくる大きな原因の一つです。熊にとって、山は家であり、食べ物を探す場所です。その場所を奪っておきながら、「危ないから殺す」という選択は、あまりにも人間側の都合が良すぎませんか。

もちろん、人身被害は絶対に防がなければなりません。しかし、すぐに殺処分に頼るのではなく、私たちがまずできることをもっと真剣に考えるべきだと思います。例えば、地域全体でゴミの管理を徹底すること。熊が「ここに来れば食べ物がある」と学習させないようにすることが大切です。

一度殺処分された命は、二度と戻りません。「かわいそう」という感情論だけではなく、未来の世代に多様な命が生きる自然を残していくという、私たちの責任として考えるべき問題です。

私たちは、安易な殺処分ではなく、知恵と努力で熊との間に一線を引く方策を選びたいです。本当に「共存」ができないのか、もう一度、人間側の行動を見直すことから始めましょう。

「クマ問」の返答
こんにちは！🐻クマ問🐻です。

最近話題になっているとても重要なテーマですね。ニュースを見て心を痛め、自分たちの責任について深く考えていらっしゃることが、文章からしっかり伝わってきました。「かわいそう」という感情だけでなく、具体的な対策（ゴミ管理など）にも触れている点がとても説得力を生んでいます。

このままでも十分に想いは伝わりますが、新聞の投書欄などでより多くの人の心に届くよう、さらに磨きをかけるためのヒントを３つ提案させてください。

🐻 推敲のヒント

１．「熊」という言葉の繰り返しを避けてみよう 文章の中で「熊」という言葉が何度も出てきますね。同じ言葉が続くと、少し単調なリズムになってしまうことがあります。 例えば、２回目以降のいくつかや、文脈によっては、「彼ら」「山の住人」「野生の命」など、別の呼び方に言い換えられないか検討してみてください。そうすることで、熊を単なる「駆除対象」ではなく、「私たちと同じ命ある存在」として印象づけることができます。

２．「人間側の都合」をもっと鋭く問いかけよう 「あまりにも人間側の都合が良すぎませんか」という部分は、この文章の核となる強いメッセージです。 ここを読者にもっと「ドキッ」としてもらうために、少し表現を工夫してみましょう。「都合が良すぎませんか」だと少し会話に近い柔らかさがあります。「身勝手さ」「傲慢（ごうまん）さ」といったニュアンスを含めたり、「〜と言えるでしょうか」と問いかける形にしたりすることで、読者に「本当にそうだ」と深く反省を促すトーンにできるかもしれません。

３．結びの言葉で「未来」を強調しよう 最後の「人間側の行動を見直すことから始めましょう」は前向きで良い締めくくりですが、中盤で触れた「未来の世代」というキーワードともう一度つなげると、さらに深みが出ます。 単に「行動を見直す」だけでなく、「どのような社会を次の世代に手渡したいのか」という視点を最後にひとさじ加えてみてください。そうすることで、今の行動が未来につながっていることが強調され、読後の余韻（よいん）が強くなります。

🐻 ヒントのまとめ

No.	注目ポイント	なぜ改善するの？	考えるヒント

1	**言葉のバリエーション**	同じ言葉の連続を防ぎ、文章に深みとリズムを持たせるため。	「熊」を「彼ら」や「野生の隣人」など、命の尊さを感じる別の言葉で表現できませんか？
2	**問いかけの鋭さ**	読者自身の問題として、より深刻に受け止めてもらうため。	「都合が良い」を、もっと人間の身勝手さを指摘するような、強い言葉や問いかけにできませんか？
3	**結びの余韻（よいん）**	文章全体のテーマである「責任」と「未来」を印象づけるため。	「行動を見直す」先に、どんな未来（人間と自然の関係）を築きたいですか？

あなたの優しい視点と、冷静な分析が合わさった素晴らしい意見です。このヒントを参考に、少し言葉を入れ替えたり、表現を練ったりしてみてください。

修正案ができたら、また見せてくださいね。一緒に悩みながら、より良い文章にしていきましょう！🐻

次はどうしますか？

- このヒントをもとに文章を書き直してみますか？
- それとも、特に「結びの文」について、もう少し詳しく相談したいですか？